

本文

江雪 柳宗元

【白文】

千山鳥飛絶  
万径人蹤滅  
孤舟蓑笠翁  
独釣寒江雪

【書き下し文】

千山（せんざん）鳥（とり）飛ぶこと絶（た）え  
万径（ばんけい）人蹤（じんしょう）滅（めつ）す  
孤舟（こしゅう）蓑笠（さりふ）の翁（おきな）  
独（ひとり）り釣（つ）る寒江（かんこう）の雪

【語注】

- ・千山…数えきれないほど多くの山々。「千」は具体的な数でなく「非常に多い」意。
- ・万径…無数の小道。「径（逕）」は細い道。

- ・人蹤…人の足跡。「蹤」は「踪」とも書く。
- ・蓑笠…みのとかさ。雨や雪をしのぐ装い。
- ・翁…老人。ここでは釣りをする漁翁。
- ・寒江…冷えきった川。

登鶴鵲楼 王之涣

【白文】

白日依レ山尽  
黄河入レ海流  
千里目  
欲レ窮  
更上一層楼

【書き下し文】

白日（はくじつ）山に依（よ）りて尽（つ）き  
黄河（こうが）海に入（い）りて流る  
千里（せんり）の目（め）を窮（きは）めんと欲（ほつ）し  
更（さら）に上（のぼ）る一層（いつそう）の楼（ろう）

【語注】

- ・白日…輝く太陽。
- ・依山…山に沿うように。
- ・窮…きわめ尽くす。

- ・千里目…はるか遠くまで見渡す視界。
- ・更…さらに、もう一段。

## 設問

1. 「江雪」の詩の形式を漢字四字で答えよ。また、そう判断できる根拠を「一句の字数」と「句の数」の二点から説明せよ。
2. 「江雪」の作者である柳宗元は、何という時代（王朝）の詩人か。漢字一字で答えよ。
3. 「江雪」で押韻している字を、原文の中からすべて抜き出せ（三字）。
4. 第3で答えた押韻について、五言絶句の押韻の原則（通常どの句末で韻を踏むか）を説明したうえで、「江雪」がその原則と比べてどのような特徴をもつかを述べよ。
5. 「江雪」の各句の頭の字を上から順に並べると、ある言葉が読み取れるとも言われる。第一句「千山…」、第二句「万径…」、第三句「孤舟…」、第四句「独釣…」の頭の四字を順に書き出せ。
6. 「江雪」と「登鶴鵲楼」は、ともに「五言絶句」という同じ形式の詩である。両詩を比べたとき、描かれている世界の「動き」という観点で、どのような違いがあるか説明せよ。
7. 次のうち、「江雪」の鑑賞として最も適切なものを一つ選び、記号で答えよ。
  - ア にぎやかな都の春の情景を、明るく華やかに描いた詩。
  - イ 雪に閉ざされ生き物の気配が絶えた静寂の中で、孤独に釣りをする人物の姿を通して、孤高で動じない心境を描いた詩。
  - ウ 戦乱で荒れ果てた都を嘆き、人々の苦しみを訴えた詩。
  - エ 別れを惜しむ友との宴席を、にぎやかに描いた詩。
8. 第一句「千山鳥飛絶」を現代語訳せよ。
9. 「千山」「万径」について、ここでの「千」「万」はそれぞれ具体的な数を表しているか。表していないとすれば何を表しているか、説明せよ。
10. 第一句・第二句（「千山鳥飛絶」と「万径人蹤滅」）は、語の構成や意味の上で互いに対応する関係になっている。
  - (1) このような二句の関係を何というか、漢字二字で答えよ。
  - (2) 「千山」と「万径」、「絶」と「滅」のように、対応している語句の組をもう一組、原文から抜き出せ。
11. 第二句「万径人蹤滅」を現代語訳せよ。
12. 「人蹤」とはどのような意味か、答えよ。
13. 第三句「孤舟蓑笠翁」を現代語訳せよ。
14. 「蓑笠」とは何か。具体的に二つの物を挙げて答えよ。
15. 第四句「独釣寒江雪」を現代語訳せよ。
16. 「独釣」の「独」は、この詩においてどのような情景・心情を強調しているか説明せよ。
17. 補助教材「登鶴鵲楼」の作者王之涣も唐代の詩人である。「登鶴鵲楼」の詩の形式を漢字四字で答えよ。

18. 「登鶴鵲楼」の第三・四句「欲窮千里目／更上一層楼」を現代語訳せよ。また、この二句に込められた教訓的な内容（よりよいものを求めるには努力を重ねる必要がある、という趣旨）を簡潔に説明せよ。
19. この詩の前半二句（第一・二句）と後半二句（第三・四句）とでは、描かれている対象が大きく異なる。前半と後半はそれぞれ主に何を描いているか、簡潔に説明せよ。
20. この詩全体に描かれた情景の特徴を、「静寂」という語を用いて説明せよ。
21. 雪と寒さに包まれた世界の中で独り釣りをする漁翁の姿から、作者はどのような人物像・心情を表現しようとしているか。「孤高」という語を用いて説明せよ。
22. 柳宗元は、同じ唐代の文章家であるある人物とともに「古文復興（古文運動）」を唱えたことで知られ、二人合わせて「韓柳（かんりゅう）」と呼ばれる。この「もう一人」の人物の名を漢字で答えよ。